

製材工場経営成績の判定

神 和 雄

はじめに

「日本の会社」という本が市販されている。著者は阪本藤良氏、光文社の出版である。私は去る日、なにげなしに、この本を M 書店で見つけ、どんな内容かと思ひながら、パラパラ とページをめくってみたが、だれでもできる経営分析という項に、特に興味を感じ、書代 200 円を支払って、とうとう手にいれた。以後私は、手元にある昭和 35 年度製材工場経営調査報告書（農林省農林経済局統計調査部）の内容に、新たな興味を感じながら、「日本の会社」という本の中で述べられている方法のとおり」以下のような経営成績判定の計算を進めてみたわけである。なお、個々の製材工場の貸借対照表（バランスシート）が、残念ながら私の手もとにないので、昭和 35 年度製材工場経営調査報告書の中に記されている次項に掲げる表のような、出力階層別の 5 グループの夫々の平均値並びに 5 グループ全体の平均値を用いて、この場合の計算を試みることにしたわけである。

計算に用いた数値

昭和 35 年度製材工場経営調査報告書では、昭和 35 年 12 月 31 日現在の製材工場数 28407 工場の中から、動力の出力が 7.5 KW 未満のもの 4178 工場、会社組織でないもの 12534 工場、その他この調査の条件に適合しないもの 4740 工場の 3 者を差引いた 6955 工場を調査対象母集団数としており、製材用動力の出力階層別調査対象母集団数と調査工場数は、第 1 表のとおりとなっている。

なお調査条件に適合する工場とは、

経営組織が会社のもので、製材用動力の出力が 7.5 KW 以上の工場

(2) 製材のみの企業体に属する工場、ただし、製材が製材と関係のない各種事業をいとなむ企業体の一つであっても、製材に関する決算が、それ以外の事業の決算と分離できるものもさしつかえない。

第 1 表 出力階層別調査対象母集団数と調査工場数

出力階層 区分	総 数	7.5kw	15.0~	22.5~	37.5~	75.0以上
		~15.0	22.5	37.5	75.0	
調査対象母集団数	6955	1475	1597	2119	1384	380
調査工場数	493	55	56	127	182	73

素材の販売を行わないもの、または行なってもその数量が、自家年間製材用素材消費量の 50% 未満のもの。

自家製材品以外の製材品の販売を行わないものまたは行なっても、その数量が、自家年間製材量の 50% 未満のものを云い、同一の工場について調査した。昭和 34 年、35 年度の平均的バランスシートは、第 2 表のようである。

私は、この表の全平均値を用いて製材企業の水準を求め、以下に述べるような計算を進めてみたのである。

経営成績の判定

「日本の会社」という本には、総合的に経営分析する方法として第 3 表のような方法が掲げられている。

第 3 表 経営成績の判定項目

① 収益力	もうける力は十分あるか	使用総資本利益率	$\frac{50}{100}$
② 資産力	設備の大きさは適当か 不良在庫をかかえていないか	固定資産回転率	$\frac{15}{100}$
		棚卸資産回転率	$\frac{15}{100}$
③ 金融力	金繰りは十分か	酸性比率	$\frac{20}{100}$

第 3 表による総合的計算法は次の如くである。

第 3 表の 3 つの項目別に、業界の平均値を 100 としたときの、その会社の比率を下記のようにして計算する。

$$\frac{\text{その会社の数値}}{\text{業界全体の平均値}} \times 100$$

による答えに第 3 表の右の欄のウエイトをかける。たとえば、金融力を例にとると

$$\frac{\text{その会社の酸性比率}}{\text{業界全体の酸性比率}} \times 100 \times \frac{20}{100} \text{である。}$$

各項目の得点を合計するとその業界の総得点の合計の平均は 100 になる。

製材工場経営成績の判定

第2表 平均的バランスシート

出力階層		7.5~		7.5~15.0kw		15.0~22.5kw		22.5~37.5kw		37.5~75.0kw		75.0kw~	
年度		34	35	34	35	34	35	34	35	34	35	34	35
流動資産	現金預金	1,973	2,625	590	1,029	992	1,192	1,934	2,550	3,421	4,183	6,406	9,596
	売上債権	3,795	4,498	1,057	1,309	2,092	2,320	2,680	3,190	5,663	6,966	20,989	24,328
	その他	232	325	225	81	19	37	180	220	336	682	1,572	1,764
	計	6,000	7,448	1,872	2,419	3,103	3,549	4,794	5,960	9,420	11,831	8,452	35,688
固定資産	棚卸資産	4,504	5,231	1,223	1,324	2,131	2,153	3,609	4,083	7,596	9,527	20,956	24,072
	その他	2,450	2,856	418	472	891	1,108	2,289	2,793	4,428	5,017	10,585	11,944
	小計	12,954	15,535	3,513	4,215	6,125	6,810	10,692	12,836	21,444	26,375	59,993	71,704
構成	有形固定資産	3,994	4,938	1,417	1,818	1,991	2,342	3,016	3,859	6,545	8,343	18,583	2,155
	投資	818	929	287	228	151	275	444	619	1,692	1,893	4,576	74,629
	その他	82	72	16	12	7	12	53	57	186	106	449	538
	小計	4,894	5,939	1,720	2,058	2,149	2,629	3,513	4,535	8,423	10,342	23,608	26,724
	繰延勘定	153	215	21	19	33	51	781	111	162	356	1,565	1,744
	合計	18,001	21,689	5,254	6,292	8,307	9,490	14,283	17,482	30,029	37,073	85,166	100,172
負債	流動負債	6,566	7,412	1,569	1,861	2,897	3,086	6,277	72,71	10,744	12,128	27,785	30,765
	その他	6,486	8,199	1,790	2,372	2,753	3,248	4,270	5,303	11,740	15,354	33,632	41,698
	計	13,052	15,621	3,359	4,233	5,650	6,334	10,547	12,574	22,484	27,482	61,417	72,463
資本	長期借入金	1,698	1,967	688	484	665	889	984	1,458	2,708	3,223	10,246	10,542
	その他	259	315	65	61	52	81	188	138	561	849	1,189	1,320
	計	1,957	2,282	753	545	717	970	1,172	1,596	3,269	4,072	11,435	21,862
	小計	15,009	17,893	4,112	4,778	6,367	7,304	17,719	14,170	25,753	31,554	72,852	84,325
資本	資本金	1,591	1,717	806	825	1,172	1,223	1,179	1,247	2,144	2,341	6,672	7,596
	資本剰余金	159	152	3	16	33	38	102	52	280	337	1,197	1,050
	利益準備金	994	1,163	221	270	390	488	876	1,052	1,656	1,807	4,770	5,694
剰余金	任意積立金	253	222	2	105	44	36	181	124	411	397	2,312	2,463
	未処分利益	501	986	110	298	301	401	588	1,085	607	1,431	1,987	3,970
	純益金	1,242	1,927	333	673	735	925	1,283	2,013	1,852	2,841	4,445	7,201
	小計	2,992	3,796	1,142	1,514	1,940	2,186	2,564	3,312	4,276	5,019	12,314	15,847
	合計	18,001	21,689	5,254	6,292	8,307	9,490	14,283	17,482	30,029	37,073	85,166	100,172
	売上高	31,795	39,225	10,747	13,433	16,254	18,827	26,539	33,304	53,628	66,843	132,239	157,485

年度別製材企業の水準値

前頁に掲げたように、総合的判定のための計算を進めるためには、製材企業の水準が明らかでなければならぬ。そこで、私は、第4表に掲げる計算式により第2表平均的バランスシートの全平均（出力階層7.5KW~75KW~）の該当数値をあてはめて、昭和34年、昭和35年度の製材企業の水準値は、第4表のようであると看した。

又、製材企業の水準値と比較するための、個々の会社の数値のかわりに、第2表中の出力階層毎の数値をとりあげたが、製材企業の水準値と同様に計算した数値をまとめると第5表のようになる。

なお、昭和34年度と昭和35年度の水準を比較してみると第6表のようになる。

第6表のように、昭和35年度における使用総資本利益率の伸びは著しく大きい。

なお、出力階層別の年度比較は第7表のとおりである。ただし、第7表では、昭和34年度を100とする昭和35年度の数値のみを掲げた。

第7表で明らかなように、異状な伸びを示すのは7.5~15KW階層の使用総資本利益率であり、ついで出力階層37.5~75KW~が高い伸びを示している。又、固定資産回転率では、出力階層15~22.5KW、22.5~37.5KWが、下降傾向を示している。

経営成績の判定表

前掲の諸数値によって、成績判定表を作成すると、第8表のようになる。

第8表で明らかなように、出力階層別の5グループの中で、いちばん総合成績の良いのは22.5~37.5KWのグループである。このグループは、業界の水準が100であるのに126.50~120.98を示している。

第4表 年度別製材企業の水準値

計算式	年度	34	35
使用総資本利益率 = $\frac{\text{年間純利益}}{\text{使用総資本}} \times 100$		$\frac{501}{18001} \times 100 = 2.78$	$\frac{989}{21689} \times 100 = 4.55$
固定資産回転率 = $\frac{\text{売上高}}{\text{固定資産}}$		$\frac{31795}{4894} = 6.50$	$\frac{39225}{5939} = 6.61$
棚卸資産回転率 = $\frac{\text{売上高}}{\text{棚卸資産}}$		$\frac{31795}{4504} = 7.06$	$\frac{39225}{5231} = 7.49$
酸性比率 = $\frac{\text{当座資産}}{\text{流動負債}} \times 100$		$\frac{6000}{13052} \times 100 = 45.97$	$\frac{7448}{15611} \times 100 = 47.71$

第5表 出力階層別製材企業の水準値

出力階層	7.5~15kw		15~22.5kw		22.5~37.5kw		37.5~75kw		75kw~	
	34	35	34	35	34	35	34	35	34	35
使用総資本利益率	2.09	4.74	3.62	4.23	4.11	6.20	2.02	3.75	2.33	3.96
固定資産回転率	6.25	6.53	7.56	7.16	7.56	7.34	6.25	6.46	5.60	5.89
棚卸資産回転率	8.79	10.14	7.63	8.74	7.35	8.15	6.93	7.02	6.31	6.54
酸性比率	55.73	57.15	54.92	56.03	44.84	47.39	41.89	43.05	46.32	49.25

第6表 水準の比較

年度	34	35
使用総資本利益率	100	163.7
固定資産回転率	100	101.7
棚卸資産回転率	100	106.1
酸性比率	100	103.8

第7表 出力階層別水準の年度比較

出力階層	7.5~15kw	15~22.5kw	22.5~37.5kw	37.5~75kw	75kw~
	35	35	35	35	35
使用総資本利益率	226.8	116.9	150.9	185.6	169.9
固定資産回転率	104.5	94.8	97.1	103.4	105.2
棚卸資産回転率	115.4	114.6	110.9	101.3	103.6
酸性比率	102.6	102.0	105.7	102.7	106.3

第8表 経営成績の判定表

出力階層	7.5~15kw		15~22.5kw		22.5~37.5kw		37.5~75kw		75kw~	
	34	35	34	35	34	35	34	35	34	35
使用総資本利益率	37.59	52.09	65.11	46.48	73.92	68.13	36.29	40.77	41.91	43.52
固定資産回転率	14.42	14.82	17.45	16.23	17.45	16.66	14.42	14.66	12.92	13.37
棚卸資産回転率	81.67	20.31	16.21	17.50	15.62	16.32	14.72	14.06	13.41	13.09
酸性比率	24.25	23.96	23.89	23.49	19.51	19.87	18.23	18.04	20.15	20.65
計	94.93	111.18	122.66	103.70	126.50	120.98	83.66	87.53	88.39	90.63
年度の傾向	上昇 117.1%		下降 84.5%		下降 95.6%		上昇 104.5%		上昇 108.2%	

る。又4つの数値をみても、満足にちかい数値である。5グループの中で、いちばん成績の悪いのは37.5~75KWのグループである。

このグループは、83.66~87.53を示すにすぎない。しかも、内容的に4つの数値をみても、満足すべきものは一つもない。なかんづく内容的に、もっとも成績の悪いのは使用総資本利益率である。又、酸性比率で示される金融力においても5グループの中で、もっとも悪い。

しかし、経営の判断を行なう場合には、いまの成績が、上昇傾向を示しているのか、下降傾向を示しているのかを確かめることが重要であるとされている。このような見方をすると、2年度の数値では明らかな傾向

はつかめないと思うが、出力階層7.5~15KW, 37.5~75KW, 75KW~が上昇傾向を示すのに反し、15~22.5KW, 22.5~37.5KWは、共に下降傾向を示していることになる。このような傾向は、製材工場の今後の経営に対して、一つの問題を提起するのではなからうか。

あとがき

私は、「日本の会社」という本に興味を感じ、手もとにある昭和35年度製材工場経営調査報告書とむすびつけ、とりいそいで計算を進めてみたのであるが、私はあなたにおすすめしたい。計算は極めて簡単である。

あなたは、まず、あなたの工場が出力階層で、どのグループに属するかをつかみ、そのグループの数値を水準として経営成績の判断をされればよいのである。もし、あなたの工場が 37.5 ~ 75 KW のグループなら第 5 表のように使用総資本利益率 3.75、酸性比率 43.05 ...昭和 35 年度の製材業界の水準として、第 3 表による総合的計算法の例にならない計算をすすめればよいわけである。又、私がこの稿で用いたよ

うに全製材企業の水準に比してみたらどうなるかをチェックされるとよい。年度による傾向が上昇か下降かをもチェックされることが望ましい。私は、あなたの会社の経営成績が何点かを御自身で判定され、なお一層、経営上の問題解決の方途を発見されることを希ってやまない。

- 道林務部 SP -